

わがまちの「ちよつといい話」

NO. 57

「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

五月十三日(日)、五月晴れの中、笠松町みなと公園Eボート大会が開催された。川を通じた交流やふれ合いの場を創ろうと笠松町が昨年度から始めた催しである。今年

学生十三名が、ライフジャケット(救命具)・パドル(櫂)の受け渡し、乗降する際のボート固定に取り組んだ。当日は木曽川の水位が下がり、Eボートが接岸する位置は、設置された船着き場より三十センチほど低い。レースを終えたボート先端部を綱で固定し、「パドルを出してください。引っ張りつこしますよ」と声をかけ、ボートを引き寄せる。接岸したボートを手で引きとどめ、「中央の人から降りてください」

◇ ◇ ◇
この大会の運営にあたったのは、約四十五名のスタッフ。担当

みなと公園Eボート大会
ボランティア活躍!



「お疲れさまです」と声をかけ、パドルとラ

する町職員に加えて、スポーツ推進委員会、レクリエーション協会、笠松中学校生徒の三十数名がボランティアとして、放送やタイム計測、ボート乗降補助などを支えた。オレンジTシャツを着た中

◇ ◇ ◇
イフジャケットを預かる。降りる人を気遣う心が、迅速な行動を引き出す。全員が降りると、次のレースに臨むチームが乗り込む。乗降する間は、ス

スタッフがボートを手で引きとどめてい



パドルを手渡す中学生ボランティア
笠松町みなと公園で